真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度

事務事業評価マネージメントシート

作成日　令和8年3月12日

事務事業名	認知症高齢者見守り事業		担当課・係	健康福祉部　高齢福祉課　高齢福祉課・地域支援係
政策名　No	2	「笑顔づくり」～安心と元気アップ！～	関連するSDGs･DX	
施策名　No	3	高齢者福祉の充実		

成果指標	名　称	単　位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11	目標値 R11
	徘徊高齢者QRコード利用者数	人	8					
	認知症サポーター養成講座回数	回	20					
	認知症サポーター養成講座受講者数	人	599					

事業内容

・徘徊をする可能性のある高齢者に対し、早期に身元が判明できるようにQRコードを利用し、安全の確保を図り、家族介護者の支援及び負担軽減を図る。
①概ね６５歳以上の徘徊高齢者及び徘徊する可能性がある高齢者で申請があったものに、衣服や杖等に貼り付けられるQRコードを配布
・申請から１年間は無料（市負担：3,740円/人）
・GPS助成事業　上限6,000円
②認知症講演会で市民に認知症について理解してもらう。
・認知症家族教室や認とも個別訪問で家族介護者の支援及び負担の軽減につなげる。
③認知症サポーター養成講座実施

前年度の課題（Check）

・必要な方にQRコード利用事業やGPS助成事業の周知が行き届いていくよう認知症カフェ、認知症家族教室等でも周知を継続する。
・若い世代(小学校世代）からの認知症サポーター養成講座の実施等で認知症政策の充実を図る。

7年度振り返り

【１】実績（Do）７年度に実施した事業
①徘徊高齢者QRコード利用事業　8人
②認知症カフェ10周年記念事業として認知症カフェ協力事業や認知症ボランティア等の表彰と認知症講演会として若年性認知症の当時者をモデルとした映画上映を実施。
③認知症サポーター養成講座　20回　599人　小学校9校実施

【２】結果と課題（Check）
・認知症高齢者が増加する中、QRコードやGPSを利用しながら、高齢者とその家族が安心して在宅生活を送ることができるよう支援していくため、周知の継続。
・認知症サポーター養成講座を継続する。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　□ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　■ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【３】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

（1）ただちに取り組むべきこと
①ケアマネ連絡会等で事業の周知をしていく。
②在宅医療・介護連携事業の認知症対応力向上研修とタイアップし、R7年度実施した映画上映のモデルとなった当事者を招待し講演会実施。
③小学校全校で認知症サポーター養成講座を実施できるよう学校側へ依頼の継続。

（2）長期的な計画で検討すること
・認知症高齢者見守り事業の継続
・第10期高齢者支援計画に組み込む形で認知症施策推進計画を策定する。